

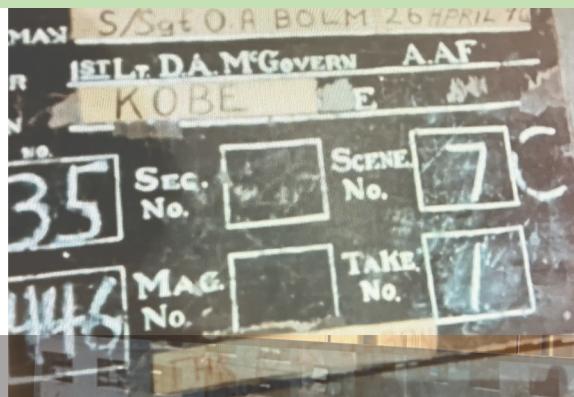
「市民とともに読み解く神戸の戦後・戦災の記憶と記録—映像資料から(その1)」

2月3日(土) 会場 神戸映画資料館

参加費 無料 長田区腕塚町5丁目5番1 アスターにづか1番館北棟2階

プログラム 10:20-12:45(開場10:05)

- ・主旨説明・司会 長志珠絵(神戸大学)
- ・「戦略爆撃調査団:USBSS報告書とは」佐々木和子(神戸大学)
- 映像- USSBS神戸フィルム(昭和館DB版を映写します) の上映 50分**
- ・「USSBS神戸フィルムの撮影手法と映像分析」
衣川太一(映画資料館)
- ・「USBSS報告書が注目した神戸の防空壕」 長志珠絵
- ・コメント 小城智子(神戸空襲を記録する会)
- ・参加者からの意見・情報交換等



戦後直後の「神戸」は、戦災・占領・復興が交差する街でした。

ここにやってきた米軍関係者の中には、日本の空爆効果を調査した米国戦略爆撃調査団の姿があり、カメラは、写真やカラー動画映像によって街や人々を記録におさめています。本企画はこの映像を視聴者と共有し、街や人の生活を紐解き、読み解く試みです。

お気軽にご発言・ご参加ください。

問い合わせ先

: s.osa@people.kobe-u.ac.jp

主催:神戸大学地域連携事業2023

主題—「市民とともに読み解く神戸の戦後生活史-戦災をめぐる映像資料の新たな可能性を考える」
代表・長志珠絵(神戸大学国際文化学研究科)